

ボツワナ共和国月報(2023年4月)

主な出来事

【COVID-19】

- 感染者数

【内政】

- 暫定国家開発計画(TNDP)を施行-640億プラの開発予算-
- ツウケディ・カーマ氏が国会議員資格を喪失
- UDCが国民議会補欠選挙で連勝

【外政】

- マシシ大統領、スイスを訪問
- WHO地域代表、マシシ大統領を表敬訪問
- ケニア及びナミビアの副大統領、ボツワナを訪問
- エストニア経済開発担当次官、クワペ外務大臣を表敬訪問
- スロベニア副大臣、クワペ外務大臣を表敬訪問
- 米国大使、クワペ外務大臣を表敬訪問

【経済】

- 付加価値税の軽減税率適用が終了
- 第2回ボツワナ銀行金融政策会合-政策金利は2.65%で現状維持-
- IMF世界経済見通し-2023年のボツワナ経済成長率を下方修正-
- 3月インフレ率9.9%-前月比で0.8%の上昇-
- 2月国際商品貿易統計-6億プラの赤字-
- 2022年第4四半期情報通信統計
- 中長期債務残高-近年増加の傾向-

【社会・イベント】

- ボツワナはアフリカで3番目のランサムウェア標的国
- ボツワナ北部にてこの42年間で最も深刻な干ばつ発生
- 第38回ボツワナ・ホスピタリティ・観光協会(HATAB)年次会合の開催
- Forbes Under 30 アフリカ会合の開催
- 廃棄物バリューチェーン・シンポジウムの開催

【COVID-19】

○ 感染者数

- (1) 保健省が発表した過去1カ月(3月23日～4月28日)の感染数は、前月(2月25日～3月23日)と比して減少した。
- (2) 昨年4月は一日平均感染者数が10人台前半で落ち着いていた。同年5月に入り、感染者数が毎週倍増し、6月9日、保健省は、ボツワナが感染の第5波に入ったと発表

したが、6月末頃から再び減少が始まり、7月28日には第5波が収束したと発表した。同年8月以降、一旦状況は落ち着いていたが、11月以降、感染者数は2桁台に増加し、年を明けた本年1月まで感染者数は増加していた。他方、死者数は第5波収束以降、1桁台で推移を続けており、過去1カ月(3月23日～4月28日)の死者は1人であった。

【内政】

○ 暫定国家開発計画(TNDP)を施行-640億プラの開発予算-

1日、TNDPが施行された。本計画は、ポストコロナ及び2036年までの高所得国入りを目指すビジョン2036を踏まえ、2023/24年度から2年間、640億プラの開発予算を投じる国家開発計画である。なお、このTNDPは、昨年10月の臨時国民議会にて、第12次国家開発計画(NDP12)の実施開始を、2024年に実施される総選挙実施後の2025/26年度に延期する代替として実施することが決定されたものである。

○ ツウケディ・カーマ氏が国会議員資格を喪失

カーマ前大統領の弟であるツウケディ・カーマ氏は、2022年11月以降、国会を欠席し続けたため、セロウェ西選挙区の国会議員資格を失った。21日、政府は正式に空席を宣言し、今後、大統領の決定する日程にて補欠選挙が行われることとなった。ツウケディ氏は、2022年3月に情報局(DIS)に拘束されて以来、カーマ前大統領と共に南アフリカに「亡命」中である。

○ UDCが国民議会補欠選挙で連勝

野党連合民主改革のためのアンブレラ(UDC)は、マポカ・ヌラプクワネ区の国民議会補欠選挙で勝利し、与党ボツワナ民主党(BDP)に対する連勝記録を続けている。UDCは、2019年の選挙以降に行われた17回の補欠選挙から、13回勝利しているのに対し、BDPの勝利は4回に留まっている。

【外政】

○ マシシ大統領、スイスを訪問

29日、マシシ大統領は、スイスのアラン・ベルセ連邦大統領の招きにより、スイスを公式訪問した。本訪問は、2023年2月のベルセ大統領によるボツワナへの公式訪問を受けたものである。両大統領は、貿易、投資、ホスピタリティなどの分野における二国間協力の強化に関する宣言書に署名するとみられる。また、マシシ大統領は、フリブール大学で開催される民主主義に関する円卓会議に出席した他、スイス訪問後は英国に渡り、5月6日に行われるチャールズ3世国王の戴冠式に出席する。また、英国滞在中に、エストニアのアラル・カリス大統領と二国間協議を行う。

○WHO地域代表、マシシ大統領を表敬訪問

18日、WHOアフリカ地域事務局長のモエティ博士はマシシ大統領を表敬し、8月にボツワナでWHOアフリカ地域委員会の年次会合を開催予定であると説明した。同会合には、アフリカ47カ国の保健大臣、政府高官、関係機関が参加し、保健分野の課題や、人々の健康増進を目的とした将来のプロジェクト等について議論する。

○ケニア及びナミビアの副大統領、ボツワナを訪問

ケニアのリガティ・ガチャグア副大統領とナミビアのナンゴロ・ムブンバ副大統領が、Forbes Under 30サミットに出席するため、ボツワナを訪問した。両副大統領は、サミット参加に加え、マシシ大統領及びツォフワネ副大統領との二国間会談を実施した。

○エストニア経済開発担当次官、クワペ外務大臣を表敬訪問

3月31日、エストニアのマリーン・ラトニック外務省経済開発担当次官及びダニエル・シェールアフリカ担当大使は、通信・知識・技術省の招待でビジネスセミナーに出席するためにボツワナを訪問した際、クワペ外務大臣を表敬し、教育、貿易分野におけるデジタル化、中小・零細企業のビジネス促進のための銀行プラットフォームの開発等における協力について会談を行った。

○スロベニア副大臣、クワペ外務大臣を表敬訪問

5日、スロベニアのサミュエル・ズゴバル外務・欧州問題省副大臣は、クワペ外務大臣を表敬訪問し、研究・イノベーション、DX、健康、観光等の二国間及び多国間の関心事項について会談した。

○米国大使、クワペ外務大臣を表敬訪問

26日、ハワード・ヴァン・ヴランケン米国大使は、クワペ外務大臣に信任状(写)を奉呈した。会談の中で、クワペ大臣は、保健、貿易・投資、安全保障、人材育成等の多分野に渡る協力関係に感謝の意を表した。

【経済】

○付加価値税の軽減税率適用が終了

昨年7月から実施されていた付加価値税(VAT)の軽減税率措置が3月末で終了し、1日より従前の14%に引き上げられた。政府は、インフレ緩和策として軽減税率を昨年8月1日から6か月間の時限措置として導入しており、今年2月に時限延長(今年3月末まで)していたもの。

○ 第2回ボツワナ銀行金融政策会合-政策金利は2.65%で現状維持-

28日、ボツワナ銀行は、今年2回目の金融政策会合において、前回に引き続き、政策金利(MoPR)を2.65%で現状維持することとした。本決定は、4月からのVAT軽減税率廃止、賃金上昇圧力、現在予測を上回る国際商品価格高騰等によるインフレ率上昇のリスクを抱えるものの、世界的な景気低迷の可能性や弱い内需等を勘案したことによるものである。

○ IMF世界経済見通し-2023年のボツワナ経済成長率を下方修正-

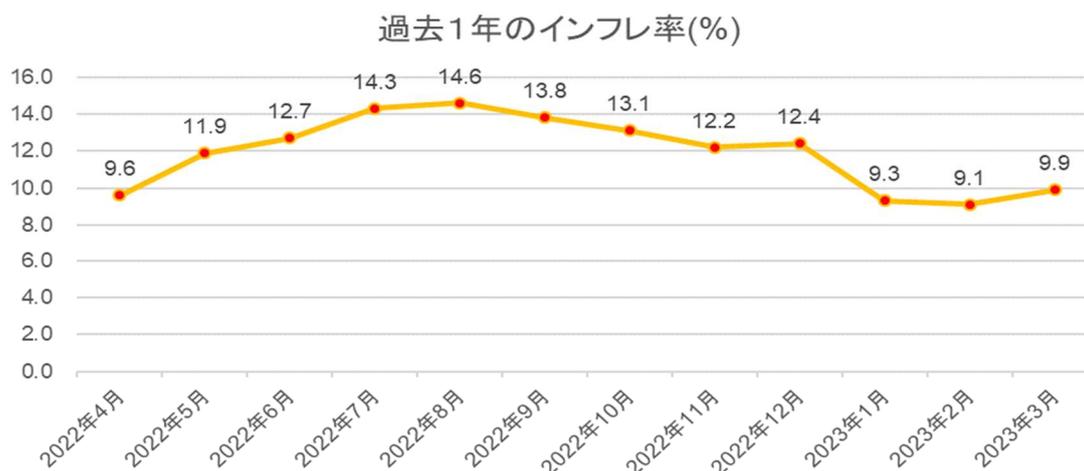
IMFは、今月発表した世界経済見通しにおいて、今年のボツワナの経済成長率を3.74%とし、前年10月の見通しの4.0%から下方修正した。また、今後5年間の経済成長率は、4%前後と予測している。

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
GDP成長率(実質値)	3.74%	4.26%	3.99%	3.97%	3.98%	3.96%

○ 3月インフレ率9.9%-前月比で0.8%の上昇-

3月のインフレ率は前年同月比プラス9.9%で、2023年2月の9.1%から0.8ポイント上昇した。(図表1参照)。分野別寄与度は、運輸(4.0%)を筆頭に、食品・非アルコール飲料(2.4%)、住宅、水道、電気・ガス・その他燃料(0.8%)、雑品・サービス(0.8%)であった。この中で、運輸部門の指数は、前月の145.1から148.9へと2.6%の上昇を記録した。特に運輸部門のサブカテゴリーである個人運輸業指数が4.6%と大幅に上昇したが、これは3月1日から実施された燃料小売価格の増額改訂によるものである。

図表1



○ 2月国際商品貿易統計-6億プラの赤字-

2月のボツワナの輸入額は68億4,440万プラで、2023年1月59億9,430万プラ(改訂値)から14.2%上昇した。輸出額は50億9,460万プラで、2023年1月の72億1,050万プラ(改訂

値)から29.3%減少した。この結果、貿易収支は、前月の6億1,470万プラ(改訂値)の黒字から一転して、6億1,480万プラの赤字となった。これは、ダイヤモンド輸出額が30%と大幅に減少した他、食糧品の輸入額が40%と大幅に増加したこと等が要因である。

(分野別内訳:上位5分野(%))

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	ダイヤモンド(19.1)	燃料(18.8)	食料・飲料・タバコ(18.2)	機械・電機機器(12.4)	化学・皮革製品(11.1)
輸出	ダイヤモンド(77.0)	銅(8.7)	機械・電機機器(5.1)	家畜(2.2)	塩・ソーダ灰(1.3)

(国別内訳:上位5カ国(%))

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	南アフリカ(63.7)	カナダ(13.5)	米国(5.0)	インド(4.0)	中国(2.0)
輸出	UAE(28.2)	南アフリカ(15.2)	インド(12.3)	ベルギー(9.5)	中国(8.0)

○ 2022年第4四半期情報通信統計

2022年第4四半期及び過去5年間の携帯電話、固定電話、インターネット及びモバイルマネー契約者数(推移)は以下のとおり。

契約者数	2018年第4四半期	2019年第4四半期	2020年第4四半期	2021年第4四半期	2022年第4四半期
携帯電話	3,295,636	3,891,733	3,688,472	4,009,022	4,181,783
固定電話	85,592	107,511	140,936	151,531	166,227
インターネット (モバイル経由)	1,804,449 (1,749,059)	2,027,515 (1,965,456)	2,317,519 (2,240,166)	2,557,538 (2,455,623)	2,977,845 (2,844,958)
モバイルマネー	1,074,706	1,384,502	1,365,938	1,646,865	1,811,036

○ 中長期債務残高-近年増加の傾向-

2022/2023年の中長期的国内外債務残高はそれぞれ291.87億プラ及び206.92億プラとなり、近年増加傾向にある。国内債務については、2020/2021年以降、国債発行が増加している。他方、国外債務について、国別債務では、今年2月にLA契約した日本からの借入金(円借款)を含む19.09億プラが計上されており第1位、また国際金融機関別では、アフリカ開発銀行(AfDB)からの借入が106.87億プラ、続いて国際復興開発銀行(IBRD)からの借入が73.77億プラとなっている。

【社会・イベント】

○ ボツワナはアフリカで3番目のランサムウェア標的国

国際刑事警察機構(インターポール)によると、2022年、ボツワナはアフリカで3番目のランサムウェア標的国となった。同機構によると、2022年にアフリカで検出されたランサムウェア攻撃の42%が南アフリカを狙ったもので、次いでモロッコが8%、ボツワナ、エジプトがそれぞれ6%となった。ボツワナでは、こうした犯罪に対する罰則が、禁固6ヶ月又は10,000プラ、若しくはそれらの併科と緩いため、ランサムウェアによる犯罪を助長していると、専門家は指摘している。

○ ボツワナ北部にてこの42年間で最も深刻な干ばつ発生

SADC食料安全保障早期警報システムの報告書によると、ボツワナ北部とSADC地域の一部の地域では、今雨季は1981年以来最も乾燥しており、深刻な作物被害を引き起こしている。同報告書は、政府機関、農民、NGOs、国際機関等、すべての主要な利害関係者が、変動する降雨パターンを分析できる早期警報システムを強化して、本課題に取り組むべきであると勧告している。他方、関係者は、干ばつに強い種子の配布、作物保険等へのアクセスの促進等、気象現象が生活や食料安全保障に与える悪影響を軽減するための行動をとることが求められている、と指摘している。

○ 第38回ボツワナ・ホスピタリティ・観光協会(HATAB)年次会合の開催

21日、「持続可能でインクルーシブな成長」をテーマに、第38回HATAB年次会合がマウンで開催され、関係省庁の政府高官、観光分野に携わる様々な民間企業が参加した。同会合に出席したツォフワネ副大統領は、地方コミュニティと連携し、多様な観光資源の更なる開発を期待するとともに、オカバンゴのみならず国内各地に観光ポートフォリオを分散させ、雇用創出につなげる必要があると述べた。

○ Forbes Under 30 アフリカ会合の開催

23日から26日、米経済紙フォーブス(Forbes)がグローバルに展開するプロジェクト「Forbes Under 30 アフリカ会合」が、ハボローネにて開催された。昨年の初会合に続き二度目のボツワナでの開催となり、ボツワナ人250名を含む30歳未満の若者853人が同会合に参加した。グローバルな舞台で活躍している、若しくは今後活躍が期待される若者が、互いの事業紹介やネットワーク構築を行った。

○ 廃棄物バリューチェーン・シンポジウムの開催

26日、ハボローネにて廃棄物バリューチェーン・シンポジウムが開催され、リユース及びリサイクルの促進、環境対策に関する協議が行われた。ボツワナでは、国内の人口増加、産業化、消費の変化に伴うゴミの増加により、ゴミ焼却や不適切な廃棄物処理による大気・水質・土壌汚染が問題となっている。EUはボツワナEU政策対話を通じて、廃棄物バリューチェーン・ロードマップの策定や環境保全への啓発活動等を実施している。

(了)